

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 7 月 30 日 (2015.7.30)

【公表番号】特表 2014-511849 (P2014-511849A)

【公表日】平成 26 年 5 月 19 日 (2014.5.19)

【年通号数】公開・登録公報 2014-026

【出願番号】特願 2014-502731 (P2014-502731)

【国際特許分類】

C 07 D 319/08 (2006.01)

C 08 F 212/08 (2006.01)

C 08 F 246/00 (2006.01)

C 07 C 309/73 (2006.01)

C 07 C 309/65 (2006.01)

C 07 C 309/77 (2006.01)

G 03 F 7/004 (2006.01)

G 03 F 7/039 (2006.01)

G 03 F 7/038 (2006.01)

【F I】

C 07 D 319/08

C 08 F 212/08

C 08 F 246/00

C 07 C 309/73 C S P

C 07 C 309/65

C 07 C 309/77

G 03 F 7/004 5 03 A

G 03 F 7/039 6 01

G 03 F 7/038 6 01

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 6 月 8 日 (2015.6.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

幾つかの実施形態において、 R^w 、 R^x 及び R^y は、独立してそれぞれの場合に水素原子、 $(C_1 - C_8)$ シラアルカン基、及び $(C_1 - C_{10})$ 炭化水素基から選択される。幾つかの実施形態において、 R^w 、 R^x 及び R^y は、独立してそれぞれの場合に水素原子、 $(C_1 - C_{10})$ アルキル基、 $(C_2 - C_{10})$ アルケニル基、及び場合によりメチレン基によって結合されていることがある飽和又は不飽和の環式 $(C_4 - C_8)$ 炭化水素基から選択される。幾つかの実施形態において、 R^y は、水素原子又は $(C_1 - C_7)$ 炭化水素基である。他の実施形態において、 R^y は、水素原子、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、フェニル基、又はベンジル基である。幾つかの実施形態において、 R^x は、 R^x が結合された炭素原子上に形成されるカチオンを安定化する基から選択される。例えば、 R^x は、フェニル基、アルケン基、アルキン基、シクロプロピル基、及び $-CH_2Si(CH_3)_3$ から選択されることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 6 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 6 4 】

図 3 は、添加された塩基の存在下（図 3 A）及び非存在下（図 3 B）での 2 9 0 G 及び 2 9 0 C の分解動態を示す。図 3 A は 2 9 0 G 及び 2 9 0 C の熱（無触媒）分解を示す。A A 濃度対時間の自然対数は、2 9 0 G 及び 2 9 0 C に対する速度定数がそれぞれ $0.009 \times 10^{-5} \text{ s}^{-1}$ 及び $0.43 \times 10^{-5} \text{ s}^{-1}$ であることを生ずる。これらの遅い分解速度において、2 9 0 G は 1 4 5 で 2 9 日間の加熱後わずか 2 0 % 分解する。両方の化合物は測定されたいずれのジェネレーション 2 A A よりも熱安定性である。図 3 B は塩基の非存在下での 2 9 0 G 及び 2 9 0 C の分解を示す。A A 濃度対時間は自触媒分解の特徴的なプロファイルを示す。当初は、分解を示していないが、いったん少量の酸が熱的に生成されると、化合物は両方とも大変に短時間期間に急速に分解する。2 9 0 G 及び 2 9 0 C の自触媒速度定数は実験誤差範囲内で同じであり、それぞれ、 $0.11 (\text{M s})^{-1}$ 及び $0.12 (\text{M s})^{-1}$ である。